２０２５年7月

MITOMI FUKUSIKAI

三富福祉会通信

Vol.２４

（社福）三富福祉会
広報部　発行

山梨市三富川浦 2203
☎0553-39-2714
https://www.mitomi-fukushikai.com

特集：「 ハナモモホームの１年と生活介護ハナモモのこれから」

■研修報告

■永年勤続表彰

■グループトーク

■令和６年度　三富福祉会決算報告

etc・・・

7
2025

２０２５年7月

昨年度、生活介護ハナモモは、山梨県強度行動障害者支援体制強化事業を受け、コンサルタントを派遣いただいて継続的な実地指導を受けました。ハナモモホーム【グループホーム】の設立からも一年がたちます。ハナモモファームの一年の振り返りと、今後の展望について生活介護、グループホームの各管理者からお話しいただきました。

特集：ハナモモホームの１年と生活介護ハナモモのこれから

ハナモモファーム　管理者・生活介護ハナモモ　サービス管理責任者　吉村　純
ハナモモホーム　　サービス管理責任者　標　昭誠

ハナモモホーム（グループホーム）

ハナモモホーム（グループホーム）
サービス管理責任者　標　昭誠

昨年度開所したハナモモホームは、三富福祉会の中でも強度行動障害者に特化したグループホームです。地域で自分らしく生活する事を念頭に置き支援してきました。開設当初は、ハナモモホーム（グループホーム）での生活、ハナモモ（生活介護）の活動に慣れてもらう事が大きな

令和６年６月からは、山梨県が実施する強度行動障害者支援強化事業（コンサルテーション）と中核的人材養成研修が同時に開始され、生活介護で行っているコンサルテーションの内容を職員間で共有し、グループホームでの支援にも反映させることが出来ました。余暇についても人員不足ではあるものの買い物や外食等に行く事が出来ました。余暇活動や外出先の幅も少しずつ広がっていければと思っています。１年を振り返ると様々な出来事があり、住まいが変わったことで利用者さ

２０２５年7月

生活介護ハナモモ

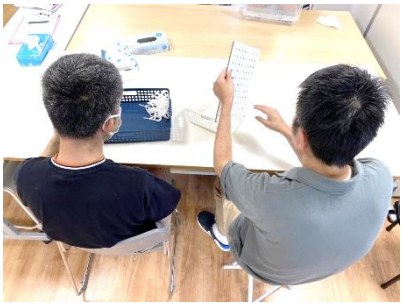
生活介護ハナモモ

サービス管理責任者　吉村　　純

生活介護ハナモモは４年目の事業所となりました。昨年度、白樺園の地域移行でハナモモホームに１０名の方が移行、内９名の方が生活介護ハナモモに通所しています。現在ハナモモには、在宅の方が７名、ハナモモホーム（グループホーム）から９名、白樺園（入所施設）から６名が通所されています。通所先はハナモモ、住まいはご家庭や各事業所とそれぞれなので、各所と連携しながら、賑やかに作業や活動を行っています。「日曜日に白樺園の職員と〇〇に行ってきた」、「家で〇〇を食べた」、「グループホームでドライブに行った」など、それぞれ方の暮らしぶりを利用者さん同士で話され、支援者に教えてくださる場面も見られます。

昨年度はコンサルテーションを受けて、作業の構造化やワークシステム作りに重きを置いて支援してきました。本年度も強度行動障害のある利用者の方々が、安心して自分らしく過ごせる毎日を目指し、支援を行ってまいります。特に、「落ち着いて過ごせる環境づくり」と「できることを少しずつ増やす支援」に力を入れていきます。行動の背景にある気持ちやニーズをくみ取り、本人の思いに寄り添いながら、パニックや不安を未然に防ぐ関わりを心がけます。

また、職員間での情報共有や支援方法の統一を進め、チーム全体で安定した関わりができるよう努めてまいります。一人ひとりの小さな成長や変化を大切にし、「できた！」「分かってもらえた！」という経験が積み重なるような支援を継続していきます。



中核的人材の活用

当法人では、強度行動障害のあるご利用者への支援の質を高めるため、「中核的人材」の活用を進めています。中核的人材とは、強度行動障害に関する専門的な知識や経験を持ち、日々の支援の中で中心的な役割を担う職員のことです。昨年度、ハナモモの支援者１名が中核的人材養成研修を受講しました。ご利用者の行動の背景にある気持ちや環境要因を丁寧に分析し、個別に合った対応方法を考え、現場全体に共有することで、より安心・安全な支援体制の構築に貢献しています。また、他の職員へのアドバイスや研修の実施など、チーム全体の支援力向上にもつながっています。

今後も中核的人材を中心とした支援体制を強化し、ご利用者一人ひとりが自分らしく過ごせる場

２０２５年7月

三富福祉会理事長

山西　孝

理事長より

理想の福祉サービス

個人的にはそろそろ仕事納めをしても良い年齢であると思います。マイカーを買い替えるにしても、いつまで運転ができるのかわからないので現実味がありません。もう仕事なんかしてないで、行きたい場所にドライブに出かける日々を送りたいです。朝起きて好天であったなら仕事場に向かわないで長野県小川村のアルプス展望台で一日中遠い昔に歩いた北アルプスを眺めていたい。仕事への情熱が冷めてしまったわけではないのだけれど。

それはさておき、以前に理想の福祉サービスについて考えていたことがありました。日本知的障害者福祉協会の地域支援部会に属していたころは機会あるごとに発言していました。先日、今の地域支援部会長から「山西さんの理想の話を以前は聞いていたよね」と電話がありました。理想を目指していた自分を忘れていました。

前置きが長くなりましたが、理想の福祉サービスとはパーソナルアシスタンスです。パーソナルアシスタンスは障害者権利条約 19 条（ｂ）にも記されています。外務省の仮訳では（人的支援を含む。）と訳されていますが原文（英文）ではパーソナンルアシスタンス(personal assistance)と明記されています。また、民主党政権時の骨格提言（障害者福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言）１－４支援（サービス）体系の５．個別生活支援に詳しく述べられています。障害があって日常生活にお困りであっても、その人にパーソナルアシスタンスが居れば大概のことは実現できます。一人暮らしだって出来てしまいます。ディスニーランドにだって好きな時に行けます。どんなに障害が重くても、一日２４時間パーソナルアシスタンスが居れば大概のことは自己実現できるでしょう。パーソナルアシスタンスを２４時間配置するためには４人以上のヘルパーが必要になります。実際には２４時間必要な人は限られるでしょう。平日の日中は生活介護を利用して、住まいはグループホームを選ぶと現実的になってきます。

パーソナルアシスタンスを制度化した自治体（札幌市）もあります。また、東京の一部では重度訪問介護を利用してパーソナルアシスタンスに近い支援を行っている事業所も有ることは知っています。しかし大きな広がりにはなっていないようです。まだ一部の人に支援を集中させる予算もなく、福祉サービスが公平に利用することが優先されています。要は障害者に対する予算の割り当てが少ないのは事実でしょう。以前、厚労省障害福祉課長に日本の障害者に対する予算は OECD の中でも決して多くはないので予算を増やすように要望したところ「これ以上の予算を増やすには政治の判断なので国民の皆さんが国会議員を選ぶときに行動してください」と逃げられました。

また現在行われているパーソナルアシスタンスに近いサービスには課題も多くあります。第一にパーソナンルアシスタンスの労働条件が犠牲になっています。ある大学の先生が「ヘルパーには時給 1,500 円も払っておけば人材確保には困らない」と言っていました。どうでしょうか。またパーソナンルアシスタンスの雇い主は障害者で主体を尊重されるべきとの主張が非常に強く感じます。それは大変良いことです。でも誤解を恐れずに言えばパーソナルアシスタンスは障害者の奴隷ではないでしょう。

理想の関係はサリバン先生とヘレンケラーを想像してしまうのは重度の知的障害者と関わってきた者の職業病でしょうか。

２０２５年7月

法人全体研修を行いました

令和７年５月 30 日（金）に夢わーく山梨大会議室にて法人研修を行ないました。今回は「環境を整える大切さ」をテーマに、ハナモモの平井健太郎職員より昨年度実施した強度行動障害体制整備強化事業の実践報告を、またコンサルタントとして１年関わってくださった明星大学人文学部福祉実践学科准教授　縄岡好晴先生から環境を整える視点から自閉症の方の支援に必要な知識と技術について講義をしていただきました。

赤い羽根共同募金より助成をいただきました

この度山梨県共同募金会　赤い羽根共同募金より助成いただき、ハロハロ一番館へ、テレビ・電子ピアノ・ソファ(２脚)・ボッチャボールセットをいただきま

永年勤続表彰

勤続１０年　白樺園　遠山　勇気

ハロハロー番館　日原　栄一

ハロハロニ番館　望月真由美

ハロハロー番館　茂手木由美

勤続２０年　ハロハロニ番館　平塚　泰成

「勤続２０年を迎えられたことを自分自身の誇りに思います。今日まで一緒に歩んでくれた利用者さん、ここまで自分を育ててくれた仲間に感謝したいと思います。」【平塚】

ハロハロキッズ職員のグループトーク　～設立九年目のハロハロキッズにお話を聞きました～

◎今回のインタビュアーはハロハロキッズ管理者の齊藤所長です。

所長：篠田さん、ハロハロキッズってどんなところか教えてください！

篠田：放課後や休日に子供たちへプログラムを提供しています。居場所つくり・自己肯定感の向上・家族の応援・関係機関や地域との連携を心がけ、現在十七人の子供たちと過ごしています。大変刺激的で賑やかな事業所です。

所長：三科さんには、ハロハロキッズの魅力を教えてもらおうかな

三科：子どもたちの成長を少しずつ、でも着実に感じるんです。様子を保護者の方にお伝えしたり、りする時間も、私の大切な時間になっています。

所長：何か印象に残るエピソードはありますか？

篠田：環境の変化や新しいことに不安が強いお子さんの「チャレンジしたい！」気持ちを大事に支援し目標が達成できた時に、子どもたちの力を信じて良かった！と励みになりました。

三科：何度か子どもたちの『ハロハロキッズ卒業』がありました。最後の日に「ハロハロさいご、おわっちゃった」と話す言葉は切なかったですが、キッズが“居場所”になっていたことを感じてとても嬉しく思いました。卒業した子どもたちが、またキッズにふらっと遊びに来てくれないかな、と、待っています！

所長：三科さん、キッズで今後やってみたいことはある？

三科：以前ハナモモで陶芸の活動に参加させてもらいました。子どもたちは体験の幅が広がり、ハナモモと一緒にサポートできてとても嬉しかったです。またそういった他事業所との交流もできたらいいなと思っています。

所長：そうだね、できるといいよね！さて、宴もたけなわではございますが今後に向けて意気込みをお願いします！

篠田：スタッフと、「この子にはどのような支援が必要か」「なぜ」と常に考えて、皆で一緒に「嬉しい」「楽しい」を感じられるように毎日を頑張っていきたいと思っています。子どもたちの笑顔は最高の宝物です♪

三科：子どもたちが大人になった時、『もう少しだけ頑張ってみようかな』と前向きになれる力を、キッズ体験の中からも育めるように、子どもたちの“今”を一緒に、大切に過ごしていきたいですね！

所長：キッズは成長期の子どもたちを対象にしているので、子どもたちの精神的な成長にもすごく関わっていると思います。子どもたちがステップアップしていく上で、スタッフたちの力が

２０２５年7月

令和6年度　三富福祉会決算報告

貸　借　対　照　表

令和7年3月31日現在

資　産　の　部				負　債　の　部			
	当年度末	前年度末	増　減		当年度末	前年度末	増　減
現金預金	77,048,284	88,203,368	▲ 11,155,084	流動負債	23,037,621	166,798,232	▲ 143,760,611
その他流動資産	102,752,065	135,397,785	▲ 32,645,720	固定負債	233,345,218	159,311,132	74,034,086
基本財産	596,337,529	615,936,672	▲ 19,599,143	負債の部合計	256,382,839	326,109,364	▲ 69,726,525
その他固定資産	99,271,980	109,591,377	▲ 10,319,397	純　資　産　の　部			
				基本金	186,054,711	186,054,711	0
				国庫補助金等特別積立金	191,320,784	202,618,281	▲ 11,297,497
				その他の積立金	10,000,000	15,000,000	▲ 5,000,000
				時期繰越活動収支差額	231,651,524	219,346,846	12,304,678
				純資産の部合計	619,027,019	623,019,838	▲ 3,992,819
資産の部合計	875,409,858	949,129,202	▲ 73,719,344	負債及び純資産の部合計	875,409,858	949,129,202	▲ 73,719,344

活　動　増　減　差　額

	令和7年3月	令和6年3月	増減
利用者負担金収入	42,581,252	39,662,392	2,918,860
介護保険等収入	727,166,930	688,294,576	38,872,354
寄付金収入	1,640,000	2,414,965	▲ 774,965
雑収入	7,171,062	20,187,996	▲ 13,016,934
サービス活動収益　合計①	778,559,244	750,559,929	27,999,315
人件費支出	574,411,011	578,422,039	▲ 4,011,028
事業費支出	105,850,130	103,184,863	2,665,267
事務費支出	72,187,595	82,420,268	▲ 10,232,673
減価償却費（国庫補助金等控除後）	15,813,261	13,615,372	2,197,889
サービス活動費用　合計②	768,261,997	777,642,542	▲ 9,380,545
サービス活動増減差額③（①－②）	10,297,247	▲ 27,082,613	37,379,860
受取利息等収入	24,735	7,281	17,454
借入金利息支出	▲ 3,017,302	▲2,370,598	▲ 646,704
雑損失	0	0	0
固定資産売却・除却損益	▲ 2	▲1	▲ 1
当期活動収支差額④	7,304,678	▲ 29,445,931	36,750,609
施設整備補助金収入等⑤	222,000	27,100,000	▲ 26,878,000
国庫補助金積立額⑥	▲ 222,000	▲27,345,000	27,123,000
前期繰越活動増減差額⑦	219,346,846	254,037,777	▲ 34,690,931
修繕積立金積立額⑧	▲ 5,000,000	▲5,000,000	0
修繕積立金取崩額⑨	10,000,000	0	10,000,000
次期繰越活動増減差額（④＋⑤－⑥＋⑦－⑧＋⑨）	231,651,524	219,346,846	12,304,678

資　金　収　支　差　額

当期活動収支差額④	7,304,678	▲ 29,445,931	36,750,609
施設整備補助金収入等⑤	222,000	27,100,000	▲ 26,878,000
設備資金借入金収入	90,000,000	127,000,000	▲ 37,000,000
過年度修正	0	0	0
設備資金借入金元金償還支出	▲ 142,122,423	▲9,982,812	▲ 132,139,611
保証金戻り	216,000	0	216,000
固定資産取得支出	▲ 886,000	▲130,400,900	129,514,900
キャッシュフロー戻し（減価償却費他）	15,813,263	13,615,373	2,197,890
修繕積立金取崩額⑨	10,000,000	0	10,000,000
修繕積立金積立額⑧	▲ 5,000,000	▲5,000,000	0
当期資金収支差額　合計	▲ 24,452,482	▲ 7,114,270	▲ 17,338,212

２０２５年7月

人材開拓 project

管理部長（採用担当）
佐野　毅

「中核的人材養成研修」 が新たにスタートしました！

「中核的人材養成研修」とは、強度行動障害を有する方（国が定める「行動関連項目（認定調査項目１２項目）」の合計点数が１８点を超える方）に対して、「強度行動障害支援者養成研修」の内容を踏まえて支援現場において適切な支援を実施し、かつ広域的な立場で施設・事業所の職員に対し適切な指導・助言ができる人材の育成を目的としている研修です。令和５年度に国のモデル事業として始まり、令和６年度から全国一斉にこの研修事業がスタートしました。この研修は、「国立のぞみの園」が国の委託を受けて主催し、各都道府県から推薦を受けた施設職員（約 100 名）が学び、それを各都道府県に持ち帰り、それぞれの県において実施することとしています。

三富福祉会では、R6・R7 年度と２年続けて山梨県代表としてこの研修に職員を派遣し、そこで得た知見を法人内はもとより県内の関連施設・事業所の職員に広く還元していく予定です。

また同時並行で、強度行動障害を有する方の支援に特化した専門家を県から派遣していただき、専門家のアドバイスを受けながら重層的にこの研修事業を深めていき、支援力の向上を図っています。

三富福祉会は「経験と勘に頼る自己流の支援」ではなく「科学的根拠に基づく系統だった支援」の普及により利用者の福祉の向上を図ります。

☆表紙作品紹介☆

ハロハロー番館　アート活動

「百獣の王ライオン」を力強くも優しいタッチで描いています。こちらの作品はハロハロー番館に展示しています。来所した際はぜひ間近でご覧ください。今年も暑い夏がもうすぐやってきます。私たちもライオンと同じくらい、それ以上にパワフルにこの夏を過ごしていきたいと思います。【丸山】

ご厚意をありがとうございました

令和７年度の三富福祉会後援会費合計額は 1,654,000 円でした。法人における社会福祉事業のための後援会費につきまして、たくさんのご厚意を賜りましたことを謹んで感謝申し上げます。ご協力いただいた方々のお名前、金額等は失礼ながら控えさせていただきますことをご理解ください。当法人が益々の発展を遂げるよう、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。【事務長　矢崎】

＜職員募集中！！＞　☎ 0553-34-9200

三富福祉会・採用担当まで

生活支援スタッフ（資格不問）

相談支援員　（社会福祉士、精神保健福祉士）

看護師、事務員、ヘルパー

編集後記

三富福祉会通信　Ｖｏｌ．２４!!

２０２５年度もよろしくお願いします。

ハナモモホーム開設から一年が経過し、生活介護ハナモモとの連携しながら、ハナモモファーム全体で支援を行ってきました。法人全体としても、誰もがご本人らしく生活できるよう、環境を整えて支援を行っています。今後も、現場の支援や研修を通して、合理的配慮とストレングスモデルの支援を行っていきたいと思います。【穐山】

広報部委員：吾妻、青山、穐山、清水、中込、依田